

「羽化の成功」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

月曜日の朝、3年教室の入口に、人だかりができて
いる。男の子が多い。ケンカかな?いや、みんな壁に
向かって目を凝らしている。



「どうしたの?」「先生、ウカ、うか、羽化!」「ア
ゲハがちょうちょになった!」「羽をぱたぱたして
るよ!」「ぼくたちが学校に来る前に、っていうか、夜
のうちに羽化したんだよ、きっと。」



あーだこーだ言っているうちに、さらに子どもた
ちが増えてきた。どうしても、さわってみたい子ども
もいる。まあ当然の反応だろう。



こういう場面では、必ず「交通整理」役が現れる。
「さわっちゃダメ!羽化のあとすぐさわると、羽をう
まく開けなくなっちゃうよ!」「でも、ちょっとだけ
指にのせたい!」「ダメ、ぜったいダメ!」



このアゲハは、すでに羽化が完全に終了し、羽も4
枚ともうまく開いている。時々風をあてるために、パ
タパタしている。教室でも羽化がうまくいったのは、
子どもがつくった「サナギホルダー」が適切だったか
らである。せまい飼育ケースからサナギを出して、ボ
ール紙に上手に取り付けて、壁に貼っておいたのだ。
このあとアゲハは、教室の中をヒラヒラ舞ったあと、
教室の窓から校庭の空に飛んでいった。